

## 第7回 琵琶湖保全再生推進協議会幹事会

- 関係府県・関係指定都市の取組等について

令和5年9月15日 大阪市

# 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業

## ■これまでの取組

<2019年1月>

大阪府市共同で「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」

<2019年6月>

G20大阪サミットにおいて、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が盛り込まれた「大阪宣言」が採択

<2020年3月>

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業を主要な取組として、大阪府とともに「SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業」へ共同提案

<2020年7月>

「SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業」に選定

※都道府県と市町村の共同提案が選定されるのは全国初の事例



おおさかプラスチックごみ  
ゼロ宣言



G20大阪サミット  
(出典：外務省ホームページ)

# 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業

## ■背景

- ・2050年までに海洋中に存在する**プラスチックの量が魚の量を超過**するとの試算(重量ベース)が報告された(ダボス会議)
- ・**プラスチックごみによる海洋汚染は、地球規模の課題**となっており、**生態系への影響**も懸念される

(プラスチックごみによる海洋汚染の現状)



海岸における漂着ごみの  
多くがプラスチックごみ



海洋生物を傷つける  
プラスチックごみ

# 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業

## ■『「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業』の概要

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現等に貢献するための計画を策定し、同計画に基づきプラスチックごみの資源循環を推進するとともに、大阪の取組みを国内外に発信する事業を実施

### ① 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」 実行計画の推進

実行計画の策定

プラスチックごみの海洋流出  
抑制の取組をより一層推進



### ② 新たなペットボトル回収・ リサイクルシステムの取組推進

ペットボトルを「有価物」として  
回収・運搬・再資源化

売却益の地域還元、活性化



### ③ SDGsの取組に関する 国際協力推進

UNEP – IETC等と連携して  
国際会議等で発信

途上国の海洋プラスチックごみ  
問題の解決に貢献



# 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業

## ①「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画の推進

- ・令和3年3月、大阪府・市共同で「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画を策定
- ・ビジョンの理念を広く周知するとともに連携強化のための方策や工程を示し、プラスチックごみの海洋流出抑制の取組をより一層推進

### ◆計画の基本体系

#### めざすもの

1. 海洋プラスチックごみの新たな汚染ゼロの実現に寄与
2. 大阪市環境基本計画の水分野の個別計画としてSDGsの達成に貢献

#### 計画の期間

目標年度をSDGsのゴールを踏まえ2030年度とする

#### 計画の目標

1. 2030年度（令和12年度）に大阪湾に流入するプラスチックごみの量を半減する。
2. 河川・海域の水質に係る国の環境基準を100パーセント達成、維持するとともに、水環境に関する市民満足度を40パーセントまで向上する。

プラスチック製品の使用抑制と環境への流出の削減

プラスチックの資源循環に向けた地域活性化のシステム推進

海洋プラスチックごみ発生抑制のための国際協力

良好な水環境の創造

あらゆるステークホルダーとの連携

5つの柱

# 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業

## ①「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画の推進

### ◆計画の進捗状況

#### ・目標の達成状況（2021年度）

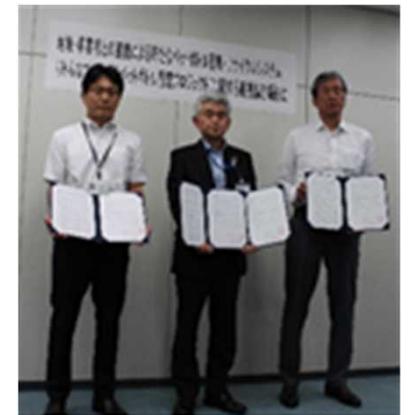
| 目標                         | 目標値（2030年度） | 2021（令和3）年度    |
|----------------------------|-------------|----------------|
| 大阪湾に流入するプラスチックごみの量         | 50%削減       | 基準値を設定：58.8t/年 |
| 河川・海域の水質に係る国の環境基準を達成している割合 | 100%        | 95.7%          |
| 水環境に関する市民満足度               | 40%         | 16.4%          |

# 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業

## ②新たなペットボトル回収・リサイクルシステムの取組推進

### ◆新たなペットボトル回収・リサイクルシステム（みんなでつなげるペットボトル循環プロジェクト）とは

- ・大阪市が2019年度に**全国の他の自治体に先駆けて構築したシステム**
- ・現在、**資源ごみとして行政が回収しているペットボトルを地域コミュニティと参画事業者が連携協働して回収するもの**
- ・分別に対する意識をより高めることでさらなる**ごみの減量・リサイクルを推進**
- ・コミュニティビジネスの要素を取り入れることで**自律的な地域運営へ寄与し、活力ある地域社会づくりに貢献**
- ・分別の徹底により質の高いペットボトルを回収することで、**マテリアルリサイクルを促進し、プラスチックの資源循環を推進**

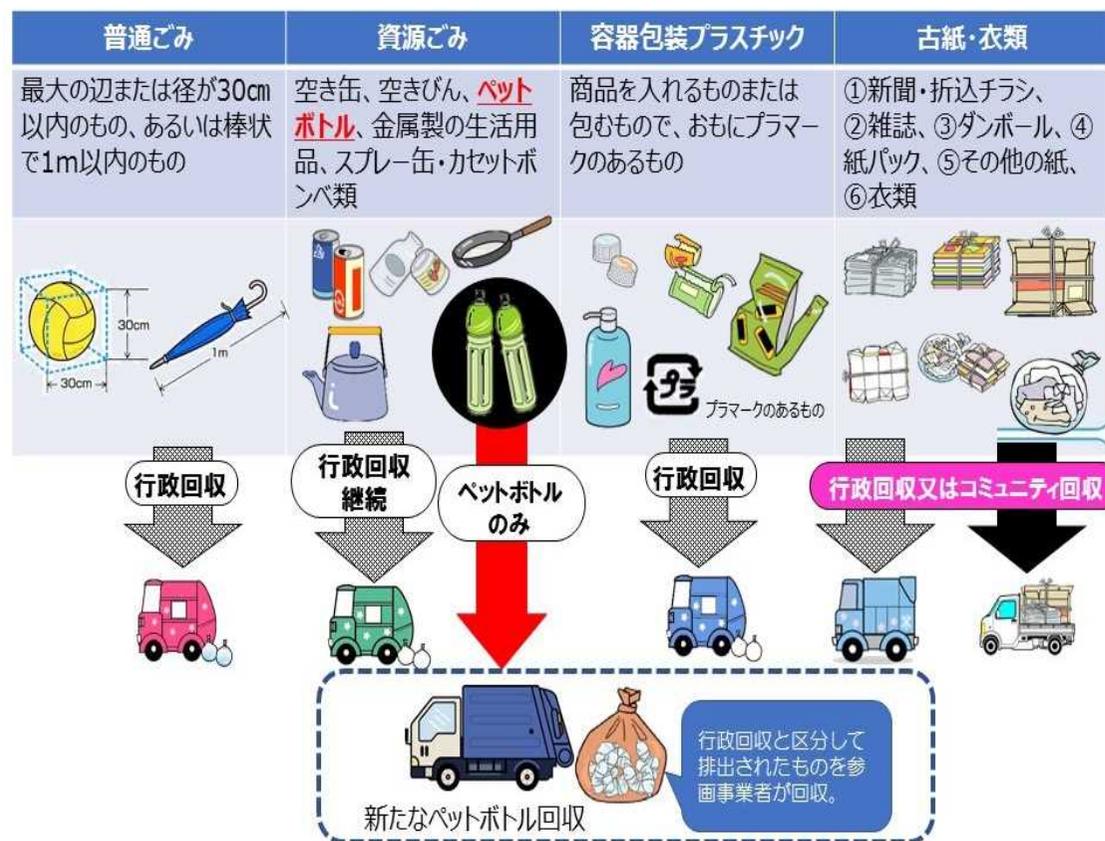


みんなでつなげるペットボトル循環プロジェクト実施に関する事業連携協定（2019年6月）

# 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業

## ②新たなペットボトル回収・リサイクルシステムの取組推進

### ◆新たなペットボトル回収・リサイクルシステムで取り組むこと



### 取組む団体

- ・地域活動協議会等の地域コミュニティ（原則、小学校区単位）規模での活動
- ・令和5年8月現在、**全体(328地域)の約4割にあたる130地域**で新たなペットボトル回収活動を実施

### 対象品目

- ・大阪市の**資源ごみ等の収集と区分したペットボトル**
- ・許可業者が収集しているアパートやマンションのペットボトル

### ペットボトルの出し方等

- ・大阪市の資源ごみ・容器包装プラスチック収集、許可業者収集と区分して排出する必要あり
- ・ペットボトルは地域で契約した参画事業者が回収を行う

# 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業

## ②新たなペットボトル回収・リサイクルシステムの取組推進

### ◆新たなペットボトル回収におけるリサイクルの流れ

実施地域が契約した参画事業者が、  
大阪市の資源ごみ等の収集と区分したペットボトルを回収

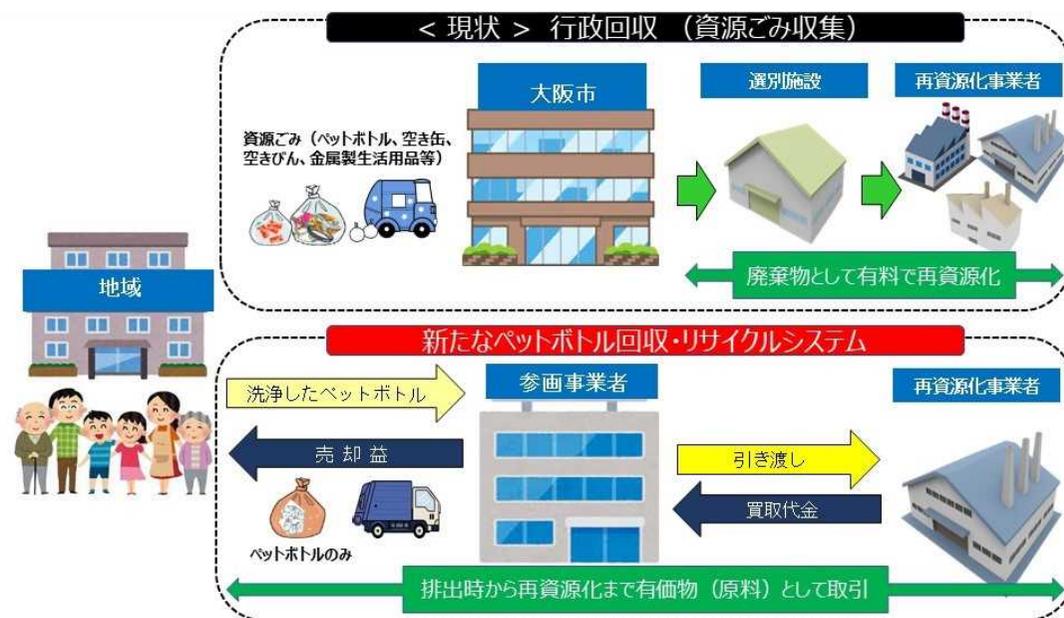
排出されたペットボトルを「**廃棄物**」ではなく「**有価物**」として  
取り扱い、再資源化事業者へ直接引き渡し

そこで得た売却費用から事業者の回収経費等を差し引いた  
ものを地域コミュニティへ売却益として還元

活力ある地域社会づくりに貢献するとともに、  
国内でリサイクルすることでペットボトルの資源循環を推進

※現行のコミュニティ回収との違い

- ①行政回収（資源ごみ収集）もあわせて継続
- ②大阪市からの奨励金の支給はなし
- ③回収主体が事業者



# 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業

## ③SDGsの取組に関する国際協力推進

- ・国連環境計画国際環境技術センター(UNEP-IETC)等と連携して、**海洋プラスチックごみの削減をめざす大阪市や日本企業等による取組を国際会議等で発信**
- ・情報発信を通して、市民・事業者に対して、環境保全への認識と地球規模での環境問題の理解を深め、**SDGsへの取組を促進**

### ◆大阪市による取組み



ペットボトル回収・  
リサイクルシステム  
の取組推進

### ◆情報発信



国際会議等

UNEP-IETCの  
ネットワークの活用

